

はじめに

人間の能力の獲得、形成、発達には「学ぶ」という主体的な活動が必要です。外部からいくら「教える」という働きかけをしても、自ら「学ぶ」という主体的な活動なしに能力を獲得することはできません。

皆さんは、人の「生命」と「生活」を護る看護職を目指す学習者です。その責任と誇りにかけて、多少の困難は覚悟して、主体的に学んで欲しいと思います。

そのために、この学習の手引きを、進むべき方向を示唆してくれる大切な書として活用して下さることを願います。

科学の急速な進歩と発展に伴って、医学・看護学の内容は刻々と変化し、学修量も年々増加しています。カリキュラムの編成に当たっては、できる限りの配慮をしていますが、専門職を養成する高等教育におけるカリキュラムは、高等学校までの教育とは違い、必ずしも一つずつの知識を段階的に積み上げていく形にはなっていません。別々の機会に学んだことを自分の頭の中で整理し、つなぎ合わせ、まとまった知識に統合していくことが求められます。この統合化の学習が、専門職に就こうとするものにとって重要であり、それを繰り返すことによってはじめて真の知識が身につくのです。

学習の手引きは、授業の目標、事前学習内容、授業の流れ、受講上の注意、評価方法、テキストや参考とすべき書籍などが、それぞれの担当者によって紹介され、また、個々の授業が4年間の教育課程の中でどのように位置付けられているかが示されています。

4年間の学校生活は瞬く間に過ぎていきます。学習の手引きを活用し、じっくり学習し、計画的に着実に勉学した人と、しなかった人との間には、知識量の上で取り返すことのできないほどの大きな差が生じます。講義や演習に携わる教職員の期待に応え、皆さんが自分の決めた目標達成に向けて主体的・計画的に学び、看護職となるための基礎的知識・技術を十分に修得することを切に望みます。

ランタナの花言葉「確かな計画性」

(専) 京都中央看護保健大学校

副学校長

